



○四小虚愛とまじり
あふりふん愛と内
指介てん祚の表

へよりまじりの表と
なるあまが実愛
ふあひび

○あ小雅愛とまじり
己まじりの迷ひ又
婆んよりして全振

あひりまじり世
あひりまじり世
あひりまじり世

まじり世
まじり世
まじり世

んこの愛ひとまじり
中不雅とまじり
まじり世

○あまじり
かるとまじり
あまじり

○大問
まじり世
まじり世

○大問
まじり世
まじり世

まじり世
まじり世
まじり世

波珊婆娑演帝

右の咒とまじり
下とまじり
切の愛とまじり
あふりまじり

○あまじり
まじり世
まじり世

○あまじり
まじり世
まじり世

○あまじり
まじり世
まじり世



ひらひて東の方と
 天の小玉の
 ありは方小舟
 が位と履べりと作
 らまを意小作月
 言どりて皇太子



木の
 汁
 糸
 ささき

今更に見の心子
 皇太子の心子
 東の方小舟ひて
 八雲拾と身一人
 心子のたまひひと
 心子のたまひひと
 心子のたまひひと
 心子のたまひひと

ためとあする人おありとあまごがよく用ん
 池の底の底をけがあやまらうと用んす
 但し夏の底を名をいおへ登すの象は
 〇海川の水波あくくして送どつとつるぬ
 〇又波あつてあせのくさるととつるぬ
 〇大出でて居て身かるとつるぬ
 〇女のゆめは夫婦の中おは舌あり

小定めのみとい

う

源光の武勇

かまごあぐむけら

あるとことさ二膳の後

のうち一人の唐

女あつとむきつ

とめりらに番由奉

とのりりの女あり

て百歩の介小柳

射と射りて逢

樹の棲徳と射

おしくん樹と射

ととくも死後

の樹と射して

のほ今君天子

のあん樹王

て武勇並ひ

お小の樹と射

君小授けなる

とまむ由が

えさる木の

あて水破を

是とめて天下

め目子孫小

えさるとい

清すさう小

光のささ

美のさひと

てより

○大川の水濁ていふとある辨

とある万のひうめ

んとすべ

○大さるる池

ふるとさる

ハ大福と

ちんをさ

○洞元より

とらとん

仕合よく

その業と

とらつと

○佳乃と

かあること

男のうら

あつと

汗と流

あつと

とあるべ

○小玉と

と一人由

まさく

いも不

恨む

○名由

とらり

とらり

とらり

とらり

とらり

とらり

とらり



幸府人た遷せ
 らるは彼処お終て
 豊一あふり人の
 なくある所なるま
 委志くつるが
 後硯天皇の
 係の強暴とやく



武ひの者人も代目おと終一職人養人とも得
 言多くてまておん志をうするの基あて大
 すりとくとも去るおのたを防くなるまは
 ひお用おすべしまておを先いぬやうおん付
 所との名お四赤とあのがあ歩行とつんま
 久く年を経てる後あまさんおお運まうま
 を必おびうの使下を笑とあま

▲人倫の部

七種の神とつんまの神とあふふて人まは
 病おては命より病も早くするの病
 ありま延るるあめ病あり使し
 七種の神とつんまの神とあふふて人まは

此ひて是を亡びさ
 人と使金ありしうと
 去は打負一味ま
 ながらおまうるお
 ありてこのおれれ
 日神資財おおあ
 後世おまあひら
 まらひけるお
 幸おんあま
 世におま
 病おては命より
 病も早くするの
 病ありま延るる
 あめ病あり使し
 七種の神とつん
 まの神とあふふ
 て人まは



○大いふのりくうまうふ大のさうんふりゆるかち
 とらんまををの祝中お昔のあみあり
 いふさうまもむのうらのきんひよま
 大いさうのなす一徳まがたいふの
 とまのさうべ一徳一人気虚一陰血
 さうんの大を愛ふるみなりとも一
 の痛どが
 ○毒のぬけさうまもふ愛ふ一祝族小
 のさあり上毒の天小かごりト毒の母小
 海まうまごもをを長命のあなりといふ
 くか伝す
 ○芝居見物成ひも男洋よりとまて人の大勢
 ありて強りく油ありとま中お交う
 楽しむと思はば男女も小園上の人あり
 まはまうまの實あをさうをさうをさう

ひて大樹あり木小
 南を擁あり津玉
 小楠とて姓とす
 海りのありやと向
 むの小をさうま
 小楠房小同ける
 内の子小楠は
 いふのありと文
 武と名をた帝の
 土かりのこの
 帝さす一め大
 ばびおひて
 とらふのふ小
 ドくま

女とまのうさひとけるさあ
 〇結んたすくとまが終て父しき人小對面
 するのありとま一まさうさう人小
 てさひさうまあひせとまありといふ
 〇推んたすくとまが終て父しき人小對面
 の孫の不足あて推んたすくとまありといふ
 の痛とまがま一人小葉と利ひて痛ひ
 〇上ささ衣はとまが終て父しき人小對面
 〇親子見者そのお一さうはありさうは

絹三足とわいで
 妹小あつとける妹
 もまの娘ひて打
 てまける妹ひて政
 子あまの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新
 けるあつとける妹
 新の娘ひて打
 ままの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新
 まひひとる妹



仙人より
 仙茶と
 授うた

妹とてまの娘と
 新の娘ひて打
 ままの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新



利益とてまの娘と
 新の娘ひて打
 ままの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新

〇新の娘ひて打
 ままの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新

〇新の娘ひて打
 ままの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新

〇新の娘ひて打
 ままの娘と親
 能めとめげ神
 ととるへて新

内の人小かざりて
身と清めて氏神
と一代の守り
さすことかゝるの
長く清ざりて
必ず赤光あり
とぞ又鬼しき
とんさうとさう
方と二ん唱へて
氏神と深ひ
あつすまは
あまふて
とあると
可く愛でるの

○仙人美人ありひと友女のさひすべ
さうと人あひて
ひらり北なり
二年のうち
ゆらりたる
○五月世ありひと
あつる
かゞんと
○盗人小抱と
あつる
○一切の
大さ

氏神の棟梁と
ひらり北なり
二年のうち
ゆらりたる
○五月世ありひと
あつる
かゞんと
○盗人小抱と
あつる
○一切の
大さ

○仙人美人ありひと友女のさひすべ
さうと人あひて
ひらり北なり
二年のうち
ゆらりたる
○五月世ありひと
あつる
かゞんと
○盗人小抱と
あつる
○一切の
大さ

まどきとかなん
うふん日まじ
時つゆ
まじ法

あしき愛とまじ
時つゆと人おぼり
ずまづ水と食
赤の方お向ひ
て唱て回く

悪夢著草木
好夢滅珠玉
无咎矣

右の呪と書ふまじ
長みとならうと
りり又左の和文

とまてゆり
醜 忌急如律令

との骨と男の左
の女右の右
おうたて一切の男
とまてゆり

すしとゆり
しりし車仁帝と

りのみりと授徳
と柄とて左と右
さす授徳指の兄
授徳さす

ののあり縁
巧と天皇と備

綴あり織人も人の心ひよるね利徳と好て
子孫をんよるなり

神釈の部
神の部は
神の部は

神の部は
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

とまてゆり
とまてゆり
とまてゆり

てきり十葉のほの
のむんとあるの
珠もむらひらんら
更く思ひつらまを
すすやと問ひけ
まの飛の物の心
もあく思ひ血を
る中よりあんな
更と問ひしんやと
いひけきり校務
ふところより極
とより出極め
改その際を何ひ
天皇とて教す
べしとすまは

の病ひとあり就誘
○佛とあごと或ひ
すうとてなまを
○寺屋場へ来ら
○越すすしと見
人小まはまは仕
珠葉花ありと
○養束率経海
うち成佛せぬ
お仏もとあり
さまはは極め
小して後と
○あひす佛と
りともかひん
りともかひん

十葉の帝位小
に汝と俱小
樂とて極めんと
のん大ふおざ
いせんとと
て止まらざる
わがそのまは
と新うりあさ
かくてあると
帝は小多ひ
て后の標と枕
していひの
唯つくと
んてそを

人小曉と
くし利と
人小対と
すうと
人と對
神の
自
○は
のあり
夏
なり
海く
べし

嫁子ありて見小
共一天皇と親

もくろんハこのとき
あふふーと石さひ
出て舟うちとる

流さまけりその
みき 帝のちん親
へかり けまふ

希勢と目と考
たひお今竹さ
夏と見り珠の
ひお 淵へまひ
一お 杖後山の方
より 侍お小女隊

器賤の部

世の及る小村なる夏とく

○船材のう小浮びとるあこ人来るこつんまび大
お 仕合より玉船あまのりよりくよ 一切の
お 舟をこしつてあてお珠もまんとかう之他 帆
お 舟をまゆくとつんまび 徳
○船仲小加てと指るとつんまび 男女おん定ま
びして苦勞あり万石とるあめ 船あ小時ハ
どんく 仕合より 海とハ 業流あふ

○やうこやね船舟のり 担び載ふふこつんまび
万石とるあふふこつんまび 舟のり
お 舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
お 舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
お 舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり

○後小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり

お 舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり

○葉山子馬子 板あどの夏とつんまび
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり
舟のり 舟小あつとつんまび 舟のり

● 徳の味へ入る命を
乞ふにても免さる
さうしうが身も
かへしなりて見と
偶小その味中
焚記あふとりり
こまき夏のうち
凶みとるしし
実愛なり
▲むじ武彦の玉
小物ごとく
ありき際も
と殺年一
まうける小
困窮あり隣川

○ 春ね茶とみひを
そひひとる
うひせぬ
買のの
ゆの
○ 鏡小
その鏡
て捨
○ カ
い
と

● 徳の味へ入る命を
乞ふにても免さる
さうしうが身も
かへしなりて見と
偶小その味中
焚記あふとりり
こまき夏のうち
凶みとるしし
実愛なり
▲むじ武彦の玉
小物ごとく
ありき際も
と殺年一
まうける小
困窮あり隣川

○ 春ね茶とみひを
そひひとる
うひせぬ
買のの
ゆの
○ 鏡小
その鏡
て捨
○ カ
い
と

婿も一途に異

よと香小入と
を子愛さあて後
合もせとの人を
んげまごえり
困窮ありて光
放り女をひとい
いも種りおて
金で個人まで
おつとこり
あつぐの屋をえ
りね小見と
糸らひとと
ける小隣と
突て大小流り

夜所あるとん

○小車をもまが
てひひよぬ
あるとー女も
しこまをよ
この考の中
中ひさ
中へ云くは
て

男八月人の女の傍小より

○戦筒を敷或ひの
まぐひひよぬ
しうれささ
とろく用ん
この後と
○初原具と

互小

さう小つ
証明も
かり社の
とつとと
とつとと
とつとと
とつとと
とつとと
とつとと
とつとと

一切の

○武家の
その外
藤おた

海川又の

○庭を
仕合
れい
と

果ばら小族て國
 人たるく徳令
 教さあひて折人
 何んて清たふまひ
 かう小作付くま下
 せは小そのとと人
 先小云さるる怒
 び因て徳令小も
 その孝めととの
 義とと或トも
 さうがさ金さすて
 併と供長一双



惜物志小云堯の子
 丹朱不肖也
 故不肖者
 此言是也
 小不肖也

方の祝の善徳を
 希あへて命せし
 きけまふあ人た
 小よろこびまはぬ
 正その金さすて
 大小二人の祝のこ
 め小族徳鬼さる
 孝子侍小裁り
 とき愛小者る不
 の虚実定まある
 とりた孝んさる
 てわくのま

○難系とくまが女ハあるるげとさ人ホ名
 たるは縁極まりて未くよささめのと
 べうまて交ある女まあるるすよささめと
 産てそ樂るめとななるあり
 ○懶とさるとんまが男の形ひのぞと方
 人の母あて者兆なり女もよと男をま
 うけ未くまんをさして仕合より樂後居
 とかりて終るん
 ○米苞とまが男女とも上るた者さるむつ
 ちひさるとんかのは是は恨び重なるの形
 ○積慶と子板とんまが男は女は恨む
 十分あて徳白髪小命長く子孫長ク
 好む出すのなり

▲生植の部
 孫本と格め解るるすさ
 さひと養小るを説く



お春のあはれ
父は必病い小因
て祥世あけき
かありこあげく
り切ありけるが

○臥枕かう作の解とこまきその
んをりして子孫長久なり
縁ありて生運安楽なり
懐恨してよき子と存むの教
○因をこまきお小の
実と解びたる愛も男女も
○稲と苜ありひの
入るこまきお小の
よきぬおありて家と家
久しけ仕合す
○一切のこまきとこまき
て人のつこまきおとら
おおと大切おしと人
かしてゆさる小栄
○稲と苜ありひの
入るこまきお小の
よきぬおありて家と家
久しけ仕合す
○一切のこまきとこまき
て人のつこまきおとら
おおと大切おしと人

ある夜の夢の中
お父は必病い小因
て祥世あけき
かありこあげく
り切ありけるが

ある夜の夢の中
お父は必病い小因
て祥世あけき
かありこあげく
り切ありけるが
○杖おの
ひありて
ともお早
の
○門松
お
古き
○若木
お

小初とらち 汝 親
と行の切ありと
いども人の賢愚
の天より 稟と教
雨の性 亦 花 仏 天
とのいども 於 方 也
まあがうその志 切
ある小より 今 汝 也
とらちのニツレ
親のうらみのま
まも 春 也
ありくと 示 現 也
けまが 祐 天 也
ま 佛 天 也 也
ともいふこと 也

どんく 出世するあり 去るがう 自ら 親 也
こて 意 ざる みのりのあく ありと 人のい 中
途 亦 て 情 弱 の ん お こ ま ば 疎 人 つ こと 疾 さら
の 意 あ ま ば 其 の 処 也 ありと つかめ 親 也
○ 親 の 生 る と 人 ま ば 大 小 仕 合 たり 男 女 也
小 恨 び あり 併 尾 紙 あり 付 たり と 足
て 由 は 一 切 の 魚 の 養 たり づ ま 由 あり とい
ま じ め づ 陸 魚 干 魚 の づ び ち 亦 存 あり
○ 願 本 ともま ば 一 亦 親 親 亦 恨 び あり
親 親 亦 一切 あり づ め たり あり とい 此
万 事 の こと すす たり あり づ づ 親 也
○ 干 魚 の 内 亦 由 鮮 親 の 干 親 の 親 也
親 親 亦 あり づ め たり 由 大 長 北 亦 あり とい



何の甲 親 ありん
ま 親 也
親 也
せん あり とい 大
ある 方 也 乞 け 親
あり とい 親 也
ける 小 親 也 親 也
吐 へ 其 の 傍 親 也



夢合長壽寶

夢合長壽寶... 夢合長壽寶... 夢合長壽寶...

人こと交りりよき人... 夢合長壽寶... 夢合長壽寶... 夢合長壽寶...

早引永代節用集全

早引永代節用集全... 早引永代節用集全... 早引永代節用集全...

萬代大雜書懷寶曆

萬代大雜書懷寶曆... 萬代大雜書懷寶曆... 萬代大雜書懷寶曆...

御圍判断鈔

大師

中本

古妝揃講釋

中本

夢合長壽寶

中本

東都書林

大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛版

